

# しごき

第 11 号



1995年11月

日本野鳥の会三重県支部

予測できない自然

私は、前号の「巻頭言」で次のようなことを述べて、ひんしゆくを買ってしまいました。

「昨年の夏は暑さにあえぎ、今年の夏は涼しさがいつまでも続く。一略一涼しさが続く異常な天候になりました。」

と。

この文は、6月下旬に書き下ろしたので、その感覚は一致していました。春からの気温、自然現象の様子、気象庁の中期予報を加味し、その先の体験しないことを推測し追加したのがいけなかったのです。

7月20日ごろになると、気象予報と反対に猛暑の連続と干ばつでした。9月16日の台風12号の集中豪雨以来、雨らしい雨がありません。この影響か、セミの最終鳴き声にも顕著に現れ、クマゼミが9月12日、アブラゼミが同27日、ニイニイゼミは9月30日、ミンミンゼミ10月10日、ツクツクボウシが10月13日、どうしたのかヒグラシは8月27日でした。このように、内宮の森は記録破りでした。

野鳥は、例年10月5～8日ごろがサシバの渡り

の最盛期ですが、宇治橋上空を通過したサシバ（毎朝7:00～8:30）は、昨年が0、今年は10月6日に4羽、同9日は27羽、同11日に11羽とハチクマ1羽が記録されただけでした。北西風が弱く、移動するコースは上昇気流を見つめるのがやっとという飛行で、飛び去る方向は定まりませんでした。それと同時に、ヒヨドリ、メジロ、カラ類の大群も記録できず、クロツグミが約20日ほど、早朝の15分ほど鳴き続けてくれたのは感動できたシーンでした。さらに、アキアカネやウスバキトンボの大群が少なかったのも印象に残りました。

そこで頭をよぎったことは、最近「錦の御旗」のように利用される環境アセスメントの記録のことです。「何々が出なかったので問題ありません。」という言葉です。前述のように自然はまったく予測することが不可能であるということです。しかも、1～2回の調査だけで、過去のデータに基づくと影響がないという断言の仕方はさけるべきだということです。調査結果は生態的な動きのある資料で判断すべきだということを実感したのです。

（すぎうら くにひこ、支部長）

目 次

小特集 冬鳥さんいらっしやい	3~5
会員のページ	6~8
探鳥地マップ③ ニツ池	9~10
パートウォッチング入門講座③	11
野鳥講座開催	12
探鳥会報告	13~16
事務局からお知らせ	17
編集部から	18

今号の表紙

絵：鹿島素子

アシ原のカモたち

秋が深くなり、アシ原にも冷たい風が吹き始めました。その中で静かに佇んでいるカモたちを見ると、こちらの気持ちもだんだん落ち着いてきます。

鳥やそのほかの多くの生き物、そして水にもやさしいアシ原をいつまでも残したいものです。

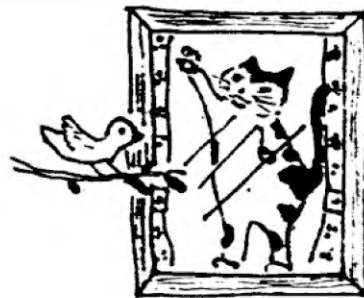
（カルガモとハシビロガモ）

冬鳥さんいらっしやい！

各地から冬のたよりも聞かれ、いよいよバードウォッチャーにとっては楽しみの多い季節になってきました。県内でも各地に冬鳥たちが訪れ始めています。そこで、この号では、冬鳥の小特集を組んでみました。まず、野鳥情報特集として冬鳥の初認情報をまとめてみました。また、おそまきながら、研究部による今年1月のガン・カモ調査の記録も掲載しました。特集の最後には臨時探鳥会のお知らせもありますので、あわせて冬のカモ類の探鳥にお役立て下さい。

野鳥情報特集

まず、目に付きやすく親しみのあるジョウビタキの初認情報です。(ジョウビタキについては、「野鳥」No. 575-1994年12月-で詳しく解説されています。)



- 10. 19 松阪市松阪公園 ♂  
(松阪公園平日探鳥会)
- 10. 21 嬉野町中川 ♂ (多田弘一)
- 10. 23 小俣町明野 ♂ (橋本祐子)
- 10. 25 松阪市光町 ♂ (宮田たつ)
- 10. 26 四日市市尾平町 ♂ (木村京子)
- 10. 26 松阪市伊勢寺町 ♀ (多田弘一)
- 10. 27 伊勢市藤里町 ♂ (吉居瑞穂)
- 10. 28 志摩町越賀 ♂♀ (中村みつ子)
- 10. 29 小俣町大仏山 ♂♀ (橋本祐子他)
- 10. 29 伊勢市勢田町 ♂ (下和田幸子)

何らかの傾向を見るには材料が乏しいのですが、いかがでしょうか。情報を寄せていただいた皆さんのお話では、今年は例年よりも5日から1週間程来訪が遅かったということです。

では、その他の冬鳥の初認情報です。

- 8. 5 ユリカモメ 三雲町五主
- 9. 17 コガモ 三雲町五主
- コガモ 伊勢市旭町 (吉)
- オナガガモ 三雲町五主
- 9. 21 オナガガモ 松阪市高須町
- ヒドリガモ 松阪市高須町
- マガモ 三雲町五主
- 9. 23 マガモ 紀伊長島町海野
- コガモ 紀伊長島町海野
- マガモ 海山町相賀
- コガモ 海山町相賀
- コガモ 伊勢市東豊浜 (世)
- ヒドリガモ 伊勢市東豊浜 (世)

- 10. 9 マガモ 伊勢市勾玉池 (世)
- 10. 11 コガモ 伊勢市勾玉池 (世)
- 10. 12 ホシハジロ 香良洲町高砂
- キンクロハジロ 香良洲町高砂
- ハシビロガモ 香良洲町高砂
- チョウゲンボウ 三雲町五主
- アリスイ 三雲町喜多村新田
- 10. 18 オオジュリン 三雲町星合
- ノスリ 伊勢市朝熊町 (世)
- 10. 19 セグロカモメ 松阪市松崎浦町
- 10. 20 チゴハヤブサ 嬉野町川原木造
- 10. 23 ノスリ 三雲町五主
- 10. 25 タゲリ 三雲町曾原新田
- チョウゲンボウ 三雲町五主
- 10. 26 オカヨシガモ 香良洲町高砂
- スズガモ 香良洲町高砂
- 10. 27 タゲリ 久居市木造町
- チョウゲンボウ 久居市木造町
- ツグミ 伊勢市三郷山 (三)
- ピンズイ 伊勢市三郷山 (三)
- 10. 29 カシラダカ 嬉野町森本
- オオジュリン 嬉野町滝ノ川
- ノスリ 一志町波瀬
- 10. 30 アオジ 伊勢市藤里町 (吉)
- ピンズイ 伊勢市藤里町 (吉)

[報告者] 無記名：多田弘一  
三：三郷山探鳥会  
吉：吉居瑞穂  
世：世古口有司

1995年1月ガンカモ調査

(日本野鳥の会 三重県支部)

種名 調査地	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハンビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	クロガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	ウミアイサ	種数	合計
木曾川河口							4	6							3	3	4	16	
長良川河口																	0	0	
阿波川河口		4		117				121	458			4	38				6	742	
朝明川河口		23						28		153						1	4	205	
伊坂ダム	20	354	394	51	1	67	42	79		11	26	6					11	1051	
山科ダム		49	42	781	1	2	2	5	40	2	409	1067	1				12	2401	
三滝川河口				60				35		3	19						4	117	
鈴鹿川河口		29	8					29	2	4	1101	26	300			18	9	1517	
神倉池		15	18	133		6	133	10	80	89	649	103					10	1236	
神倉池		30	22	250			27	25	62	2	249	79					9	746	
石上池		187	2	490			14	58	100	237	1141		10		66		10	2305	
山崎池		8		60				46		106	45	60	1250				8	1603	
浄土池		210	4									230	108			3	5	555	
道徳池		4	229														2	233	
野洲池		10		263					2								3	275	
和田池		20	4								19						3	43	
長岡池		3	15														2	18	
公明池		4	25								32						3	61	
中川河口				49			32	60	69	15	36	3					7	264	
中川河口		3	16					46			1024	47				1	5	1134	
蛇谷池		28		55									1				2	58	
五杉池				13													3	42	
古曾池				1													0	0	
小箕池																	1	1	
山内池		10	25	102			16										7	251	
重野池		6	39							13	83				2		3	46	
田濃池				5							1						1	5	
安合池	54	115	12														3	181	
梅ヶ谷池											4						1	4	
新岩田池		6	17	16							17						3	50	
雲山川		320	12	200			9	15		120	3200	30	3500				9	7092	
雲山川		3	13	9				18	6								5	366	
真泥池		128	83	30		22	5	90	260								5	380	
みかみ池				10		8	19	10	12		21	7					9	318	
奥きこ池				8													1	10	
小田池		40		1									30				2	11	
百々池																	1	30	
青蓮寺ダム		20															2	41	
野前池												9	1				0	0	
西徳池		6	6			5		9									1	20	
梅之阪池																	2	10	
松宝池							22	530	390								4	26	
宝光池		673	288	168			24	16		15	47	18					0	0	
八重池		22		41													3	942	
山室池		114		7							47	12					8	1249	
粟生池											48						4	123	
中村池																	2	121	
勝田池		12		274		6											0	0	
伊勢川河口		178						24	1032	79			46				4	294	
伊勢川河口		41				4		78	678	12	18						5	1359	
宮川河口		182	4			12		8	394	75	22			1			6	831	
宮川河口		2	25	20													8	698	
下町池				2													3	47	
下町池		105		41													1	2	
神田池		2		350													2	146	
重ね池																	2	352	
まが玉池		153	2	8													0	0	
																	3	163	

種名 調査地	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	クロガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	ウミアイサ	種数	合計
つ池		9	224	117								45	15					5	410
尾野池		8						284	103	18								4	413
山馬瀬	183							12			55	2						3	69
神路ダム		24		80		24	94	2171	291	50	712	144	6					10	3596
穴川養魚場							8	62		2	10							4	82
片田の池			18				82	58			68							4	226
鶴方浜		4																1	4
大戻り池	2	26						36										3	64
片上池		9		3														2	12
海古野里		5	2															2	7
海山馬瀬		12																1	12
産田川			18	41	1													3	60
下市木海岸		43	6															2	49
大前池																		2	0
志原池		53	36	10				11										4	110
合計	1159	3312	1609	3866	3	156	689	6034	2086	890	10485	1623	3978	1	3	72	22	17	134988

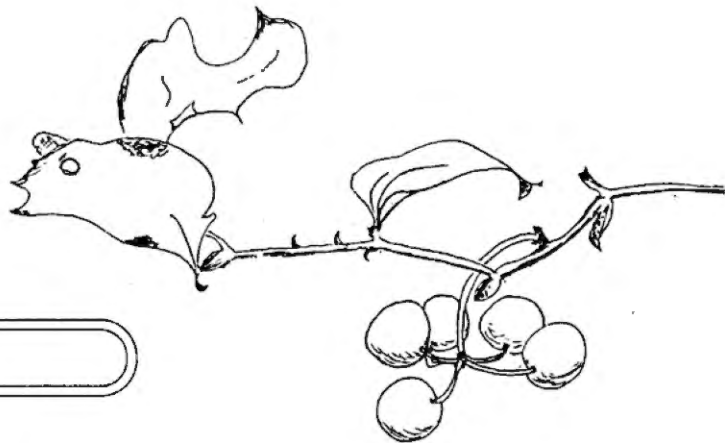
【1月15日調査以外の調査日と調査地】

(3日) 海山馬瀬 (5日) 大戻り池 (7日) 中の川～マリーナ、田中川河口・養魚池 (14日) 真泥池、小田池、みかずみ池、奥甘味池、きょうこ池、百々池、青蓮寺ダム湖、西徳明池、原野前池、梅之木池、産田川、下市木海岸、大前池、志原池 (16日) 三溝川河口 (18日) 鈴鹿川河口、楠町養魚池、鈴鹿川派川河口、石浜池、浄土池 (19日) 宝光池、松阪港 (21日) 山土池、道前池

【調査者】(敬称略)

協力者: 榎本健二、東孝一、福田清人、福田邦良(4名)

会 員: 市川雄二、伊藤多紀子、今村道、尾畑玲子、鹿島素子、木村京子、木村裕之、杉浦邦彦、世古口有司、高和義、高橋松人、武田恵世、谷本勢津雄、中橋茂子、中村洋子、中村みづ子、西村泉、西村幹和、窪矢博一、橋本祐子、濱中明代、濱中勝彦、林淳子、林雄一、平井正志、藤田克三、水野明紀、山中久次、吉居清、吉居瑞穂(30名)



臨時探鳥会のお知らせ

石垣池探鳥会(鈴鹿市西玉垣町)

テーマ: カモ類を観察しよう(公開)

と き: 1996年1月7日(日) 10:00~12:00頃

集 合: 石垣池北東側

交 通: 近鉄白子駅から三交バス鈴鹿サーキット行きか、平田町駅行きへ乗車[9時台は10分おきにあり、所要時間は約7分]、野町下車、徒歩6~7分。

または、伊勢鉄道玉垣駅より徒歩約5分。

持ち物: 防寒具、雨具、双眼鏡

備 考: 小雨決行、参加無料

問い合わせ先: 市川雄二 TEL



南アメリカ・チリ紀行①

文・絵 平井正志

この夏仕事で南米チリに1月半ほど滞在した。チリで見た野鳥、自然について紹介したいと思う。

チリは南北4300km、南緯19度の乾燥した熱帯から南部の湿潤な森林、氷河に覆われた最南端のアンデス、そして56度のホーン岬までにのびる細長い国であり、東西にはきわめて狭いが、6000mの高山から太平洋まで変化に富んでいる。そのうち今回見ることのできたのはごくわずかであるが、私にとってなにもかも新鮮であった。確認できた鳥で日本と共通なのはアマサギだけであった。

アンデスガン

実はAtacamaへ行く前から風邪気味であった。ついたその日から頭が少し痛い。しかしここまで来たのだからスケジュールどおり、地面から蒸気のわき出るGeiser el Tatio とやらに行くことにする。朝4時あたりはまだ真っ暗だが車に乗り込む。運転手とガイドのCrystileと私の3人である。持参した大きなコートを来ているので上半身は寒く

はないが足下がいささか寒い。この砂漠のオアシスSan Pedro de AtacamaからそのTatioまでは約90kmその間全く人家がない。見えるのは有明の月、いくつかの星、それに車のライトだけ。道は十分にひろいのだが舗装しているわけではなく、いくつものジグザグをくりかえしながら登っていく。いつの間にか眠ってしまった。

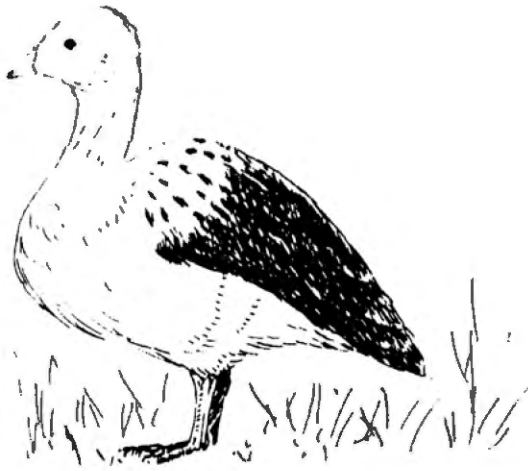
起きてみるとまだあたりは暗いが、ライトで照らし出されたまわりは一面雪で真っ白である。昨日の雲がこのあたりには雪をもたらしたようだ。雪の中を車はなおも登っていく。途中小さな川を横切る。橋はなく、浅瀬をわたる。ガイドのCrystileがこの辺に白いガンがいるという。南米に首の短く、くちばしのちいさなガンが数種いることは本で知っていた。そのうちの一つに違いないと思った。目的地Geiser el Tatioについてはすっかり明るくなっていた。山に囲まれた平らな場所のあちこちから、いきおいよく蒸気があがっ

ている。アンデスには多くの火山があり、あちこちに温泉や蒸気のわき出す所がある。これもその一つである。太陽はまだボリビアとの国境の山かげにあつて気温は相当低い。絵を描き始めたが、紙に塗った絵の具が乾くのではなく、凍ってしまい、あとで解けて、だいなしになってしまった。

暖かくなってから、チーズをはさんだサンドイッチで簡単な朝食をすませ、白いガンのいるというブタナ川にむかう。明け方に少しあった雲も消え、深青色の空が広がる。ボリビアとの国境につらなる5800mは優に

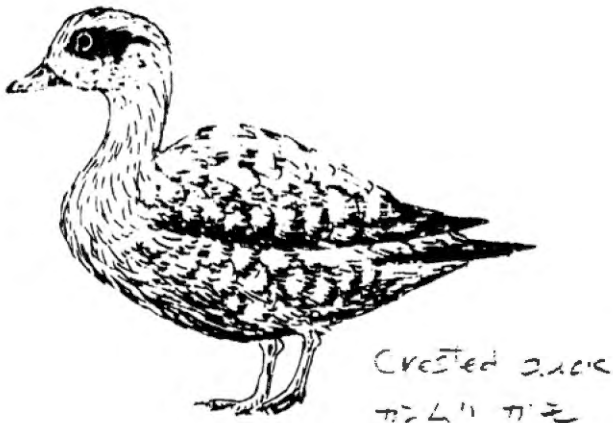


Geiser el Tatio  
地面から蒸気がふき出している  
後には Tocarpari 山、5808m



アンデスガン

越すアンデス。その麓に広がる、草すらもほとんどない乾燥した荒野。途中4500mの峠を越えた。私にこれまでに登ったもっとも高い場所である。プタナ川は川といっても少し水が流れているだけで、水はおそらくふくらはぎまでもないであろう。そしてまわりに草が生えているが同時に塩類も白く吹き出している。白いガン、アンデスガンは川の中程の草の中でやすんでいた。北半球のガンにくらべ首は短く、太く、くちばしは小さい。白い頭と胸、黒い背中と翼、はっきりとしたコントラストが美しい。まさしく南米のガンである。近づけるところまで車を寄せて写真をとる。きわだった羽色のせいかやや神経質で車を降りて近づくとすぐに飛び立ってしまう。飛ぶと翼の白と黒のもようがはっきりと浮き出る。



Crested duck  
カシムリカモ

他の鳥を見るために車から少し離れると突然上空からカモメが激しく鳴いておそって来た。よく見ると対岸で草と土を盛り上げて営巣している。Andean gullであろう。既に夏羽であり、ユリカモメのように黒いずきんをかぶっている。翼端の白と黒の模様がよく見える。カモメがゴビ砂漠の中の湖で営巣しているというのを聞いたことがあるが、ここでも海から200kmほどの砂漠を隔てたこの高山で営巣している。

よく見ると川岸の草の中に目のまわりの黒いカモがいる。どうやらCrested duckらしい。雌雄同色のような。からだは黄褐色ではっきりとしない淡色斑が散らばっている。もう一種のカモは草の陰にかくれていて全身が見えない。しかし頬がはっきりと白く、頭が帽子をかぶったように黒い。Puna tealであろう。この2種ともアンデスの高地にのみ棲息するという。Puna tealはもっとはっきり見たかったが、川を渡れないので近づくことはできない。いつも使っているあの長靴があれば。鳥の種類はあまり多くないようだ。水際を飛び回っているほとんど真っ黒な小さな鳥はどうとう名前が確認できなかった。Puna ploverは、頭に斜めの黒帯があるチドリ、コチドリくらいの大きさである。これもアンデスの高山のみに棲むという。



Puna Plover

1時間以上も鳥を楽しんだ後、帰路についた。山を降りるにしたがい、乾燥の程度は著しくなる。オアシスSan Pedro de Atacamaに近づくと草もサボテンすらもない広大な裸地が広がる。なるほど世界でもっとも乾燥した地帯である。その南は白く光る塩地、Salar de Atacama。地上に集積した塩類が3000平方キロメートルに広がっている。東には富士山にそっくりな火山Licangaburをはじめ5900mを越すアンデスがつらなり、塩地のむこうに消える。車はオアシスをめざして下っていった。

'95クリーンアップ・キャンペーン SUZUKA

高 和義

9月23日（秋分の日）、市川副支部長、木村（京）、楢原、村田、波田、西浦、の各氏と木村さんの子供さん2人、それに私の合計9名が本キャンペーンに参加しました。

クリーンアップ・キャンペーンというのは9年前米国で始まった運動で、単に海岸のゴミを拾うだけでなく、何がいくつ落ちていて、それらがどこから来たのかを突き止めるためのゴミの調査です。日本では1990年以来、年に2回実施しています。作業は3、4名が一班となり、波打ち際から一列になって、奥行き50～60mの砂浜にあるあらゆるゴミを一つずつ拾い集め、これをいわば一品一品記録していく非常に細かく骨の折れる作業です。

あるわあるわ、どこからこんなに来たのか、種々

雑多なゴミが集められ、約1時間半の内にビニール袋に何十杯という量になりました。これらのゴミは構造的な問題と人々のモラルの問題ではないかと思えます。特に目立ったタバコのフィルターと花火の燃え滓について考えると、路上に捨てられた吸いながら、配水管を通り川を通り、海岸にたどり着き腐らずに残る。また、火災防止上安全な海岸で、花火遊びをすることは良いとしても、その燃え滓は海岸であるが為に放置される。もし公園ならば家に持ち帰る人が多いであろうに。

結果は毎年整理して発表されていますが、海岸のゴミ減量化PRには今一つの感があると思えます。データが出たら、今後の「しろちどり」に掲載したいと思っています。皆さんゴミ問題に一層関心を持ちましょう。

屋久島だより

水野明紀（三重県支部屋久島支所長）

5月10日午後1時頃、外で異様な音がするので、雨が突然降り出したのかと窓を開けたのですが青空が広がっています。

突然若い男性が飛び込んできて電話を貸してくれと、枯れ草を燃やしていたら火が広がったといっているの、あわてて外に出ると、草だけでなく立木まで燃えているではありませんか、家から10メートルも離れていないところで。

電話後10分もしない内に消防車が駆けつけてきて、近くの川から水を汲む準備をし、ホースを2本持って駆け出した人をよく見ると、毎月電話代を集金に来る人でした。他の人も近所の方達で、皆日頃とはうって変わって真剣な表情でした。私もホースを1本づつ持って燃えている方へ運び、つないで先へとか、川へポンプを下ろすのを手伝ったりして消火活動に協力しました。

結局、消防車3台、救急車1台、それにパトカー1台がかけつけて、約30分後に700坪程の山林を燃やして無事けが人もなく消火しました。

（前号に掲載できなかったので、時期がずれてしまいました。ごめんなさい。）

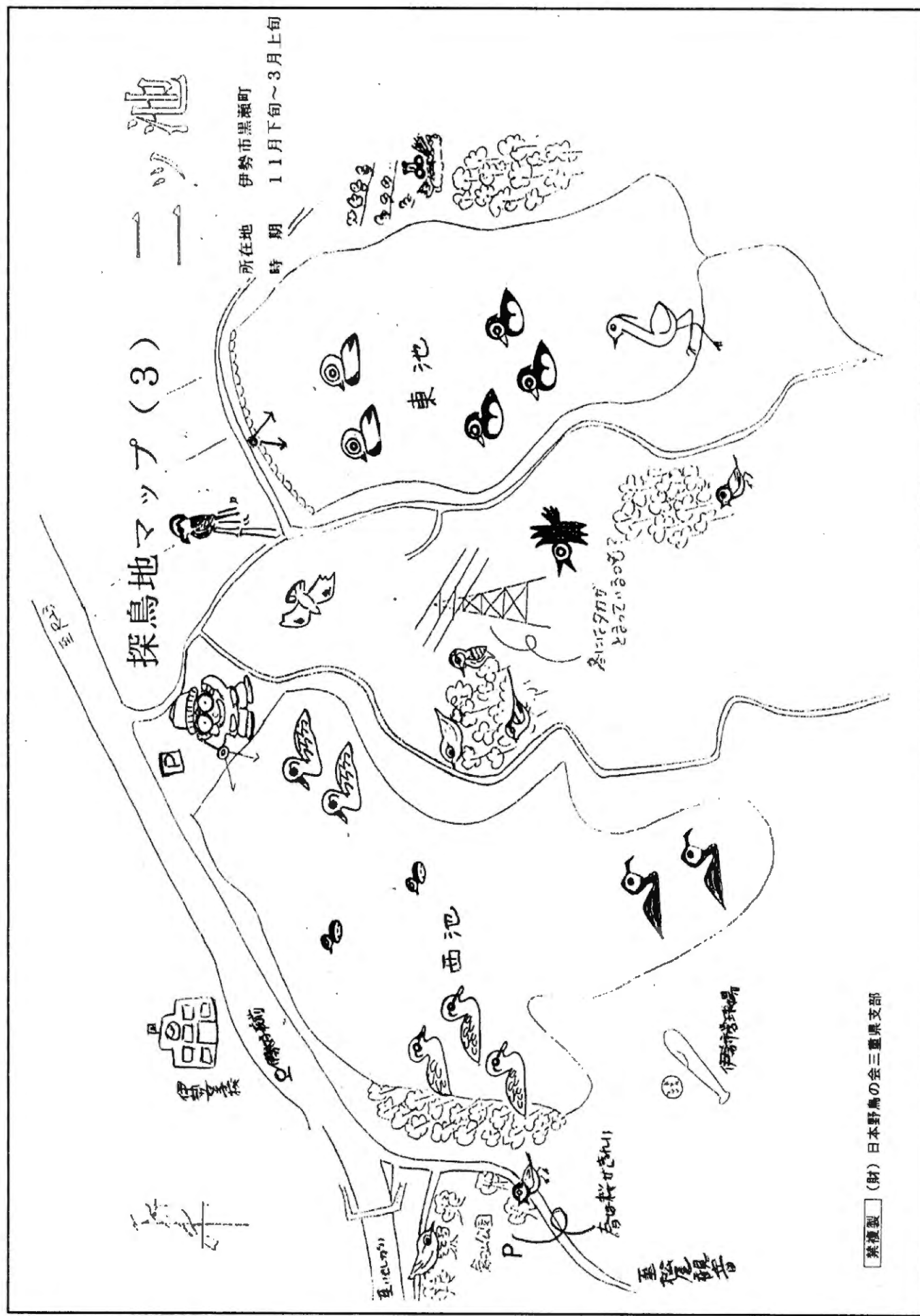




# 池

## 探鳥地マップ(3)

所在地 伊勢市黒瀬町  
時期 11月下旬～3月上旬



禁煙製 (財) 日本野鳥の会三重県支部

・・・冬の水鳥と里山の小鳥達・・・

## ニ ツ 池

1 / 250,000 地形図 伊勢

三交バス 伊勢市駅発 伊勢女子校前下車

徒歩約3分

ニツ池は、倉田山公園と伊勢市営球場に隣接した農業用溜め池で、冬にはカルガモ、コガモ、キンクロハジロ等のカモ類、ツグミ、ジョウビタキ、カラ類、時にはカモ類を狙ってオオタカが上空を舞うことも・・・

### 【今までに観察された主な鳥】

カルガモ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、ツバメ、スズメ、ムクドリ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、タヒバリ、エナガ、コゲラ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、アオジ、コジュケイ、キジバト、トビ、ノスリ、オオタカ、ハシブトガラス、ハシボソガラス他

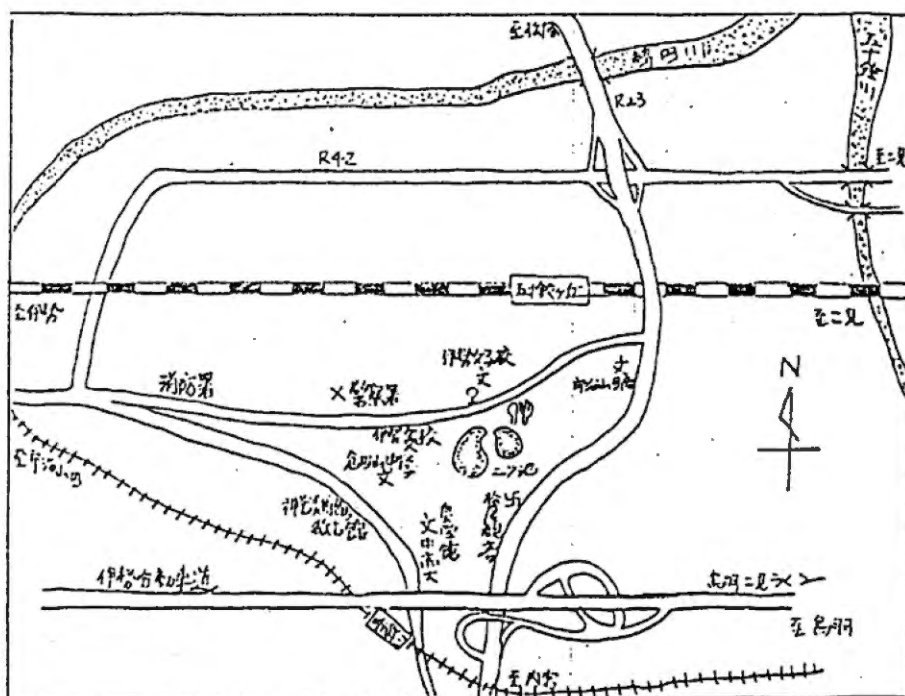
☆駐車場は倉田山公園に駐車可無料。トイレは松尾観音まで行かないとない。

倉田山公園は、桜の季節には花見客で賑わいます。

高松尾観音は厄除けで有名。昔、本堂が火災にあったとき竜池（ニツ池）より竜神が現れ本堂を守った伝説がある。

●近くに神宮徴古館、神宮美術館があります。

■ニツ池に隣接して白楽天（中華料理）力也（和食）喫茶店あり。



前々号から連載しているこのバードウォッチング入門講座、実録版ということで橋本企画部長担当の入門探鳥会を報告しています。今回は9月16日の「バードウォッチング入門②—スズメのねぐら」をレポートしようと思っていたところ、な、な、なんとその探鳥会が雨で中止になってしまいました。

というわけで、今回は、

**緊急企画!**

あなたのお部屋でヴァーチャル・バードウォッチング ---マルチメディア編

さて、バードウォッチャーの雨の日の過ごし方にはいろいろあります。野鳥や自然に関する本を読んだり、資料や記録の整理をしたり。あるいは、野鳥のCDを聴くのもいいものです。(それにももちろん、雨中のバードウォッチングも!) でも、最近では世をあげてのマルチ・メディア時代。少し趣を変えて、パソコンでインドア・バードウォッチングを楽しみましょう。最近手にしたCD-ROMタイトルのご紹介です。

「マルチメディア野鳥観察」

Windows & Macintosh  
(株) アスキー、4,800円

(財) 日本野鳥の会が協力し、本部囑託専門員の松田道生が監修、水谷高英が絵を描いているという正統派バードウォッチング入門編。大きく3つの部分からできています。

[ガイド編] 「野鳥の基礎知識」に始まり、双眼鏡やフィールドガイドの選び方や使い方を教えてくれる「バードウォッチングの道具術」や「野鳥の見つけ方」、それに「バードウォッチング歳時記」で出来ています。

[探鳥地ガイド] 日本を8つの地域に分け、それぞれを身近な探鳥地、森林の探鳥地、水辺の探鳥地の3色で表しています。三重県では、安濃川河口と伊勢神宮が紹介されていますが、画面の地図上では間違っって尾鷲市と熊野市のあたりにポイントが打たれています。少しムツとしてしまいます。

[図鑑] 169種の図鑑です。一部動画や鳴き声も楽しめるようになっていました。全体の50音順と分類順の索引、それに高山、森林といった12の環境別の索引で見ることができます。さらに、「いつ」「どこで」など14項目を入力して鳥の名を検索するプログラム—TORIDAS—(トホホ!) がついてい

ます。面白いのですが、めざす鳥の名はなかなかうまく出てきません。

全体的にはまじめな作りですが堅苦しく、初心者がなじみやすいとは思えません。絵も、主婦の友社のCDブックと同じものが多く含まれています。CD-ROMとは別に100種の小図鑑がついていますが……。4,800円は高い!

「鳥日和」

Windows & Macintosh  
シンフォレスト、3,980円

叶内拓哉のすばらしい写真集。音楽は太田正美で、これもいい。「四季」、「風とともに」、「水とともに」、「花と木とともに」の4本のスライドショーから成っています。ほかに、「日本の野鳥100」という小図鑑もあり、このうち、30種は声も聞けます。また、12カ所しかありませんが「全国探鳥地マップ」というものもあります。ただし三重県はどこも紹介されていません。いずれも中心はあくまでも写真で、解説も最小限度になっています。野鳥のすばらしさが感じられ、入門者にもお勧めできます。



## オオタカを守るということは……

10月14日（土）に四日市市の支部事務所において野鳥講座が開催されました。今回は、高橋松人副支部長を講師に迎え、オオタカについてお話をうかがいました。

高橋先生は獣医さんで、三重県野生鳥獣ドクターをされています。今年の3月に県の緑化推進課（現在の自然環境課）が発行した『三重の自然誌②オオタカ』を執筆されました。この日もそれをテキストに、先生の長年の観察・研究の成果をたっぷりとお話いただきました。（以下の文も同誌から一部引用しました）

オオタカはカラスくらいの大きさの灰色のタカです。本州では留鳥で、三重県でも生息数は多くありませんが繁殖・越冬しています。全国的にも個体数が少なく、環境庁の日本版レッドデータブックでは危急種（V）とされています。



オオタカ *Accipiter gentilis* (幼鳥)

(画：平井正志さん)

## 野鳥講座を開催

オオタカは繁殖期にはアカマツ林のある丘陵地帯を好み、それ以外の時期も、里山やそれに続く大きな林に住むことが多いということです。このため、その生息環境は近年大変厳しくなっています。松枯れによって営巣できる大きな木が減っていますし、ヒナの密猟やハンターによる誤射の危険にもさらされています。さらに、丘陵地帯はゴルフ場などとして開発が進み、その繁殖地はますます狭められる一方です。

オオタカが暮らせる環境は、自然が豊かで、人間にとってもすばらしい環境です。オオタカを守るということは、私たちにとって大切な、身近な自然を守るということでもあるのです。

### 《参加者の感想》

じっくりとオオタカの観察をされたお話で、身振り手振り鳴き声も入り、とても興味深く聴くことができました。自分の目で見、聞くことが大切だということ、その方法の一端をこれからの探鳥の参考に出来たらと思います。

鳥の生態についてはほとんど知らない状態ですので、長年の観察、経験を直接聞かせていただき、オオタカだけでなく、自然に対する興味を増しました。

おもしろい行動の数々をお話していただいて、楽しい時間になりました!!

オオタカといってもなかなか会えるチャンスもないし、出会っても識別が怪しいので、生態まで分からないことだらけです。その希少のオオタカのお話を聞けてとても良かったです。

いままで知らなかったオオタカの生態がよく分かりました。今後野鳥講座は継続していくようお願いいたします

## ○神社の森の観察会（伊勢市豊川町外宮）

- ・日 時：1995年6月3日（土）13:00～14:30 曇
- ・担 当：杉浦邦彦、今村 禎
- ・参加者：8名
- ・観察種：13種

スズメの幼鳥が多く、ドバトの餌（パンクズ）を採餌するのに集まっていた。ツバメの数が少なく、カワウが枯れたスギの梢で休憩していた。昨年あたりから姿を見せていると聞いていたが、勾玉池で観察されたのは新しい記録。セグロセキレイが観察されていない。テイカカズラ、サツキ、トベラ、タブノキ、ウツギ、ミミズバイ、ネズミモチ、ムラサキシキブ、ハゼノキが開花。植物の開花が例年と違ってくるっている。低温のためか？  
（杉浦）

## ○赤目エコリゾートの森探鳥会（名張市赤目町）

- ・日 時：1995年6月4日（日）9:30～14:10 曇
- ・担 当：山中久次
- ・参加者：13名
- ・観察種：25種

ペンション「エコリゾート赤目の森」共催。近鉄赤目口駅より雨上がりの田園、新緑の里山を登り、そしてトンボ類が20種いるという湿地を抜け、エコリゾート赤目の森まで、約6キロのコースを楽しんだ。期待のオオタカは出なかったが、アオサギの魚ハンティング、ウグイスの上音中音下音と谷渡りとバラエティーに富んださえずりに耳を傾けた。四葉、五葉のクローバーを同時に見つけた強運な人もいた。季節をかえてまた歩きたいコースです。

## ○津一色橋サギのコロニー探鳥会（津市一色町）

- ・日 時：1995年6月4日（日）10:00～10:30 雨
- ・担 当：平井正志
- ・参加者：2名
- ・観察種：5種

安濃川でササゴイを探したが、河川工事で採食場所が荒らされ、見るができなかった。

## ○カイツブリ観察会（四日市市磯津～楠町）

- ・日 時：1995年6月7日（水）9:45～11:30 晴
- ・担 当：木村京子、尾畑玲子

- ・参加者：10名
- ・観察種：17種

テーマに添って、カイツブリの親、ヒナをスケッチしたり、鳴き声、エサをとる様子、水に潜るさまなどを、チェックリストに記入してもらいました。カイツブリが水から上がったとき、あしの形や立ち姿を見ることもできました。心もち強い日ざしに、涼しい海風が気持ちよい探鳥会でした。

（尾畑）

## ○榑田川サギコロニー探鳥会（松阪市榑田町）

- ・日 時：1995年6月10日（土）9:30～11:30 晴
- ・担 当：中村洋子、荒木 茂
- ・参加者：16名
- ・観察種：14種

竹林の中でアマサギ、コサギは営巣している。アオサギは大きな木の上の方で、ゴイサギは下の方と住み分けているように思った。ゴイサギの若鳥がヒナを抱いているので、どうなっているの???——谷本さんからこれはヘルパーをしているのだと教わりました。翌日の中日新聞（松阪紀勢版）に写真と共に載りました。（中村）

## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町）

- ・日 時：1995年6月11日（日）9:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：4名
- ・観察種：20種

本日の参加者は4名とちょっとさびしい探鳥会でしたが、オオルリやカワガラスやキセキレイの溪流の鳥に加え、カジカの鳴き声が聞かれた上、ニホンザルまで参上してくれました。鳥の方でキジの声が聞かれたので、キジ、サル、これに犬が加わると、さしずめ私は桃太郎ではないかな？





## ○五十鈴川上流探鳥会（伊勢市宇治今在家町）

- ・日 時：1995年6月16日（金）9:00～12:00 晴
- ・担 当：吉居瑞穂、林 淳子、西村 泉
- ・参加者：9名
- ・観察種：22種

ササゴイのコロニーを見た後、五十鈴川に沿って緑のトンネルを歩くが、鳥のさえずりもあまり聞こえない。「最近この道、虫がぶら下がっているのをあまり見ない。虫が減ったから鳥も少なくなったのだろうか？」そんな話をしながら歩いた。そんな中で、イカルのさえずりがひととき美しくひびいた。（吉居）

## ○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会

（愛知県弥富町）

- ・日 時：1995年6月25日（日）10:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：28名
- ・観察種：26種

夏の木曾岬・鍋田は、冬と違って、しんとしずまりかえり、オオヨシキリとセッカの鳴き声がよく聞かれました。



## ○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町、亀田町）

- ・日 時：1995年7月7日（金）9:00～11:45
- ・担 当：楢原 泰
- ・参加者：7名
- ・観察種：26種

「若鳥を探す」というテーマだった。昨年は多数見られたセグロセキレイの若鳥はほとんど見られず、モズの若鳥が3個体と、ムクドリとハシボソガラスの若鳥を見た。どの若鳥も「水切り」が悪いのだろうか、羽が濡れていた。ハチクマが近くを飛んでくれて、羽の斑がよく見えた。同じ個体と思われるが3度見た。

## ○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園付近）

- ・日 時：1995年7月12日（水）9:20～11:45 曇
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 泰
- ・参加者：11名
- ・観察種：22種

神社林の枯れ枝に2羽のコゲラが別々に穴を一生懸命にあけているところを観察できました。また、公園池ではパンの子育てを見ることができ、ヒナがとても可愛かった。ヒナが1羽だったので、親の愛情をしっかりとらっている様子がみられた。

（伊藤）

## ○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会

（愛知県弥富町）

- ・日 時：1995年7月23日（日）10:00～12:00 晴
- ・担 当：濱中勝彦
- ・参加者：21名
- ・観察種：34種

暑いアツイ探鳥会になりましたが、20名を超える参加者がありました。ワシタカ類が1人を除いて見られず、残念でしたが、ほぼ全員、メスのキレイな羽根のタマシギをゆっくり見ることができたので、よかったです。今日は皆さん本当にご苦労さんでした。

## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1995年8月13日（日）9:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：10名
- ・観察種：9種

夏場の探鳥会ということで、鳥の種類・数はあまり見られなかった。まあ、夏場ということでこんなもんで!? それよりも、なぜ夏場鳥の声や姿が見聞きできないかを学ぶことができたのではないだろうか。



## ○ツバメのねぐら探鳥会（伊勢市有滝町）

- ・日 時：1995年8月20日（日）17:00～19:00 晴
- ・担 当：橋本祐子
- ・参加者：20名
- ・観察種：21種

身近な夏鳥ツバメの子育て以外のくらし（渡りを含む）と、とりまく環境を、集団ねぐらへ集まる彼らの観察を通して感じてもらいたかったのだが……。昨年何千羽と観察できたポイントが今年は数十羽のみ。ねぐらは移動していないのだが……？

## ○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会

（愛知県弥富町）

- ・日 時：1995年8月27日（日）10:00～12:00
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：20名
- ・観察種：31種

木曾岬・鍋田干拓地探鳥会も2年半になり、自然保護・自然復元のために行動しようという方の少ないこと。木曾岬干拓地をサンクチュアリ化しようと思っても無理のようです。野鳥たちには悪いのですが、できるなら私も保護をお願いしたいものです。家でモーツァルトのレクイエム（鎮魂ミサ曲）を聞くことにします。パッハのマタイ受難曲もいいですね。

## ○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町、亀田町）

- ・日 時：1995年9月1日（金）9:00～12:30 晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：7名
- ・観察種：20種

表題は「モズの高鳴を聞こう」であったが、まだ高鳴までは至らない鳴き方であった。しかし、木の頂で鳴いていた。

## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1995年9月10日（日）9:00～12:00 曇
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：11名
- ・観察種：10種

9月に入り秋の気配も深まり、多度峡もハイキングの人達が多くなっています。いつまでも人と

自然が調和できる場所であることを願うとともに、多度町の方々のご協力に感謝したいと思います。多度峡は四季を通していろんな観察が楽しめます。ふなれなリーダーよりよろしく!!

## ○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園付近）

- ・日 時：1995年9月13日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 葵
- ・参加者：13名
- ・観察種：17種

今月のテーマ「冬のなわばり」モズを中心に観察。高鳴きも短く、尾の振り方もまだまだやさしい。頭上の色もまだ夏期の灰色味が残っていた。が、電線に止まって自分のなわばり宣言をしているようだった。（伊藤）



## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1995年10月1日（日）9:00～12:15 曇
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：8名
- ・観察種：8種

あいにく朝から曇り。本日の目玉のタカの渡りは観察されませんでした。まあこんな事もあるのではないのでしょうか。人間の都合でタカは渡りを行うのではないのですから。また来年がんばろう。（何をがんばるんだ？）

### ○員弁川探鳥会（員弁郡大安町高柳）

- ・日 時：1995年10月3日（火）9:45～11:30 晴
- ・担 当：木村京子、濱中明代
- ・参加者：10名
- ・観察種：22種

今年の秋は、渡りが変ではないかという声を聞いています。今回の探鳥会でも、いつも見られるヒヨドリや渡りの渡りが全く見られませんでした。ショウドウツバメの渡りもいつもの年より早いように感じます。異常気象が生き物の生活にもかなり影響を与えているのではないのでしょうか。（木村）

### ○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町、亀田町）

- ・日 時：1995年10月6日（金）9:00～13:20 晴
- ・担 当：植原 葵
- ・参加者：7名
- ・観察種：25種

「カケスを探す」のテーマ通りになった。おまけに、普通はすぐ木の中に入ってしまうところを、長々と飛んで見せてくれた。

### ○亀山水曜探鳥会（亀山市江ヶ室町）

- ・日 時：1995年10月18日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、植原 葵
- ・参加者：16名
- ・観察種：20種

10月とは思えない気温の高い日でした。テーマ

は「混群を見る」。神社林でしばらく待つと、メジロ、コゲラが数羽やってきた。中にエソビタキの珍客1羽。谷ではエナガ、シジュウカラの声が聞こえている。まだ混群とはいえなかった。また野道に出ると、ホオジロを追い出しモズの場所取り宣言している様子が観察できました。（伊藤）

### ○松阪公園平日探鳥会（松阪市殿町）

- ・日 時：1995年10月19日（木）9:30～11:30 晴
- ・担 当：宮田たつ、中村洋子
- ・参加者：12名
- ・観察種：12種

ジョウビタキの初認、モズの高鳴きが印象的でした。（宮田）

### ○三郷山探鳥会（伊勢市蓮随山～三郷山）

- ・日 時：1995年10月27日（金）9:00～12:00 晴
- ・担 当：吉居瑞穂、林 淳子、橋本祐子
- ・参加者：15名
- ・観察種：13種

ヤマガラがエゴノキの種子を目当てにやってくる。誰かが歯でパチッと割ってみた。こんな固い実を小さいくちばしでよく割れるものだと感心する。ムクの実を食し、テン（？）のフンを眺め、展望台から景色を楽しみ……けれど鳥の少ない探鳥会だった。（吉居）



## 日本野鳥の会本部事務局の機構が新しくなりました

「野鳥」誌1995年11月号、活動のページでご存じの方もいらっしゃると思いますが、日本野鳥の会本部事務局の機構が新しくなりました。多様化したニーズに対応した機能別組織として、9月から業務をスタートさせていますが、正式発足は96年4月からとなります。

新しい機構を簡単にご紹介します。(1995.10.1現在)

## ◇会員センター (TEL 03-3463-8842)

企画室、業務室、編集室(直通TEL 03-3463-8919)、30万人体制プロジェクトチーム ほか

## ◇保護・調査センター (TEL 03-3463-8997)

1996年4月スタート。3月まで、国内の自然保護活動は総務部を窓口にします。

## ◇研究センター (TEL 03-3463-8862)

生態・行動研究室、環境解析研究室、資料室

## ◇ネイチャースクール「環境教育コーディネーター」(TEL 03-3463-8860)

## ◇社会企画部 (TEL 03-3463-8997)

## ◇監理部 (TEL 03-3463-8998)

経理室

## ◇経理センター (TEL 03-3463-8998)

## ◇総務部 (TEL 03-3463-8998)

## ☆サンクチュアリセンター (TEL 03-3463-8860)

サンクチュアリ室

## ☆国際センター (TEL 03-3463-8861)

環境情報計画室、国際協力室

## ◎企画事業センター (TEL 03-5701-8400)

企画室、販売事業室

(ショップ直通TEL 03-5701-6400)

## ◇は原則的に会費や一班寄付金などで運営

☆は原則的に委託費や用途を指定した寄付金などで運営

## ◎は原則的に販売や企画事業収入で運営

会費や会員登録に関するお問い合わせは会員センターの業務室へ、野鳥の会オリジナル商品等に関するお問い合わせは企画事業センターへお願いします。

(運営事務局：木村京子)

## 支部推薦図書

『農村地帯のスズメ群  
— 個体群の生態 —』

橋本太郎著 1995年9月1日発行  
定価 5000円、送料 380円

日本野鳥の会三重県支部顧問・橋本太郎氏のライフワークの一つ、「スズメの研究」が本になりました。少し専門的な内容ですが私たちの身近にいるスズメを新たに見直す一助になると思います。

ご希望の方は橋本太郎氏にご連絡下さい。

〒516

橋本太郎さん TEL



## 10号の訂正とお知らせ 〈編集部〉

まず訂正から。前号12ページの下欄外にある誌名表示で、「しろちどり第12号」となっていますが、10号の誤りです。お詫びします。

さて、編集部では、支部報を支部の機関誌であると同時に、会員の気楽な広場としても捉えています。会員の皆さんの投稿を歓迎します。支部報に対するご意見もお聞かせいただくと嬉しく思います。

会員のページへは、普段感じたこととか、こんなことがあったという報告、または支部活動に対するご意見、短歌などの作品など何でも結構ですので、長短にかかわらずお送り下さい。はがきによる短い投稿も歓迎します。もちろん、野鳥情報もOKです。可愛いカットもお願いします。

原稿やご意見は、次の各地区編集部員または支部役員にお渡しいただくか、郵便でお送り下さい。もちろん、世古口まで直接お送りいただいても結構です。また、パソコン通信ご利用の方は吉居さんへお願いします。

北勢地区	加藤征甫 〒	TEL	
伊賀地区	黒川昌吉 〒		TEL
津地区	橋本富三 〒	TEL	
松阪地区	谷本勢津雄 〒	TEL	
南勢地区	吉居瑞穂 〒	TEL	(NIFTY-Serve )

次号は96年2月の発行予定です。原稿の締切は1月末日ですので、よろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

伊勢市のある業界新聞にこんな記事がでた。

「伊勢の自然」刊行へ協力求めゴルフ大会

Sライオンズクラブが来春発行を予定している小冊子「伊勢の自然」は、青少年が郷土の自然に親しみ、大切にすることを育むための指針となるもので、学校などに贈るつもりだという。その事業への協力を求めるために、こともあろうにゴルフ大会を開催するというのである。日時も競技方法も申込先も載っているので、冗談ではないらしい。「自然」という名が付いていたって、世間はこの程度の認識なのだ。

記事を見たとき、最初は笑ってしまったけれど、少し腹が立った。今は、情けない気持ちでいっぱいである。いったいどんな冊子が出るんだろうか。

さて、今号も皆様のご支援で何とか発行となりました。感謝申し上げます。西村泉さんがカットを送っていただいたので一部使わせていただきました。ありがとうございました。

もうすぐ支部交流会、今年も瞬く間に残り少なくなりました。来年が皆様と野鳥たちにとってよりよい年であるよう祈っています。(せ)

### しろちどり第11号

1995年11月発行

表紙絵 鹿島素子 題字 濱田 稔

編集 世古口有司 〒

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館印刷 〒510-13 三重郡菰野町田口1903-3